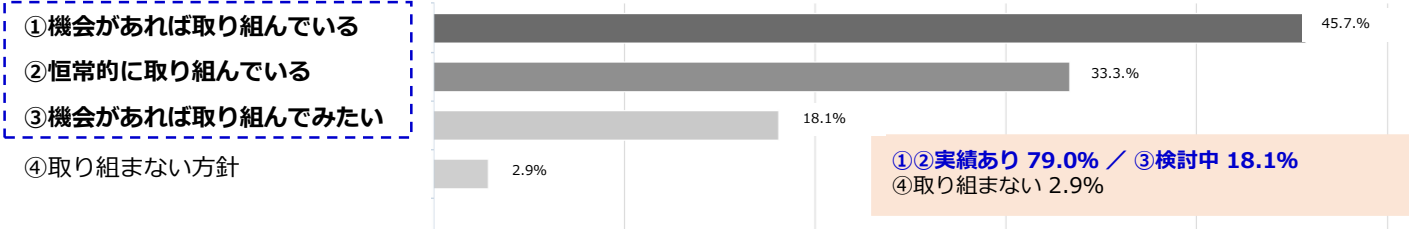


# 中部経済同友会 第11回 1000人の声「新規事業創出」に関するアンケート

実施期間：2019年6月13日～6月20日 回答数：105件（回答率 42.7%）

## Q 新規事業創出への取り組み状況

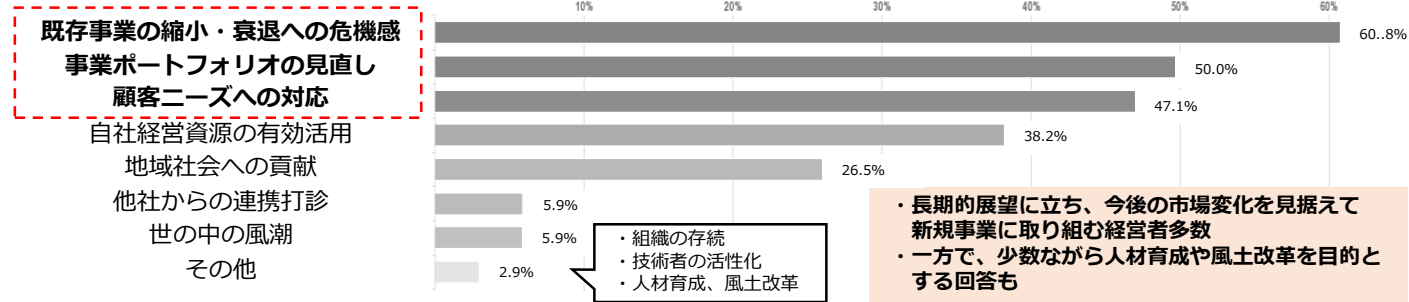
回答数：105



## 新規事業に取り組んでいる（①②）、取り組み検討中（③）回答者の結果

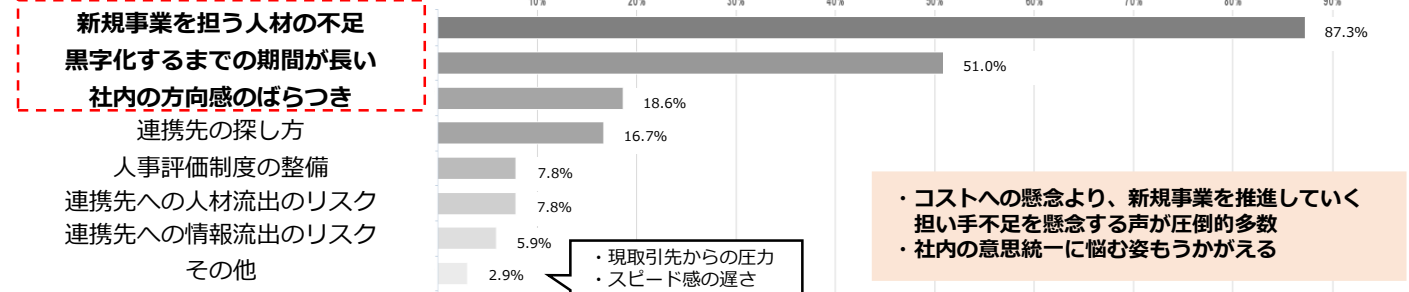
### Q 新規事業創出に取り組む（検討する）理由は？（複数回答）

回答数：102



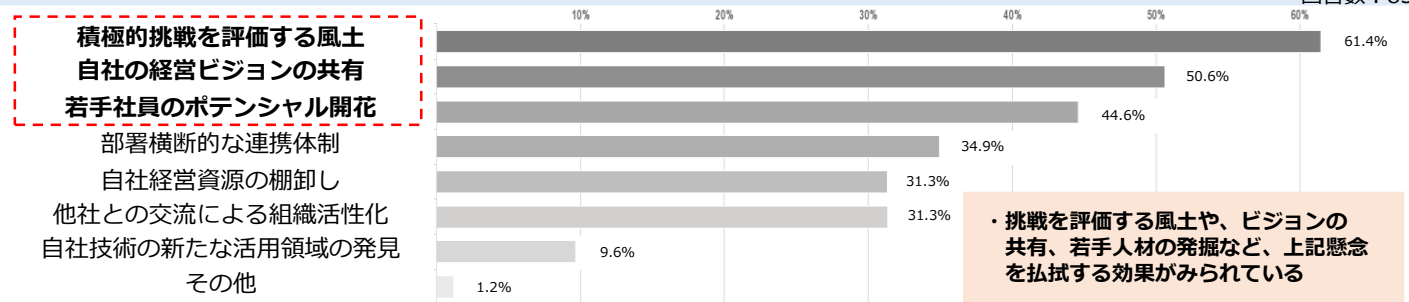
### Q 新規事業に取り組むにあたって懸念することは？（複数回答）

回答数：102



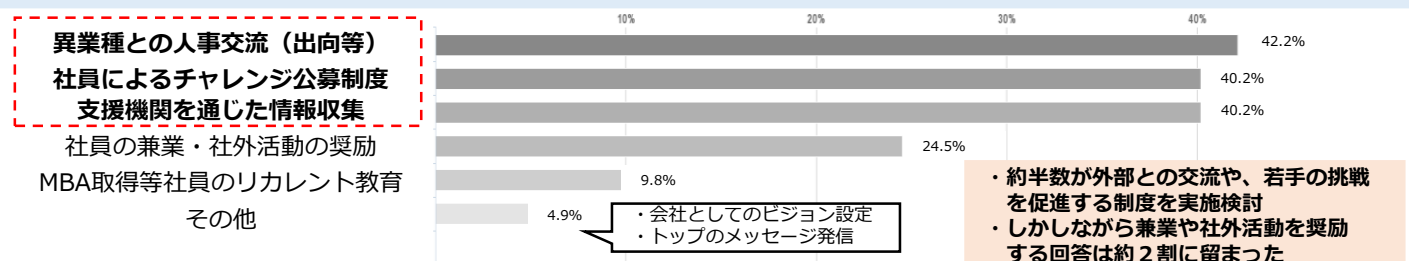
### Q 新規事業創造プロセスで、（事業確立に至らなくとも）自社にもたらされた効果は？（複数回答）

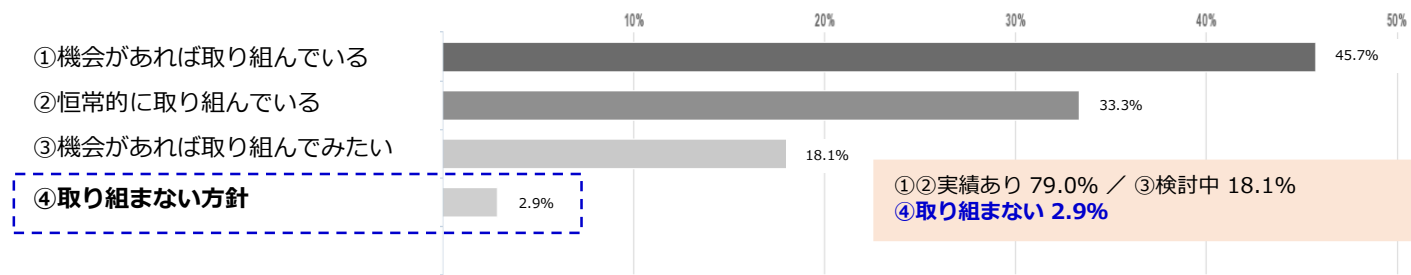
①②回答者のみ  
回答数：83



### Q 新規事業に取り組む素地の整備に向けて検討していることは？（複数回答）

回答数：102

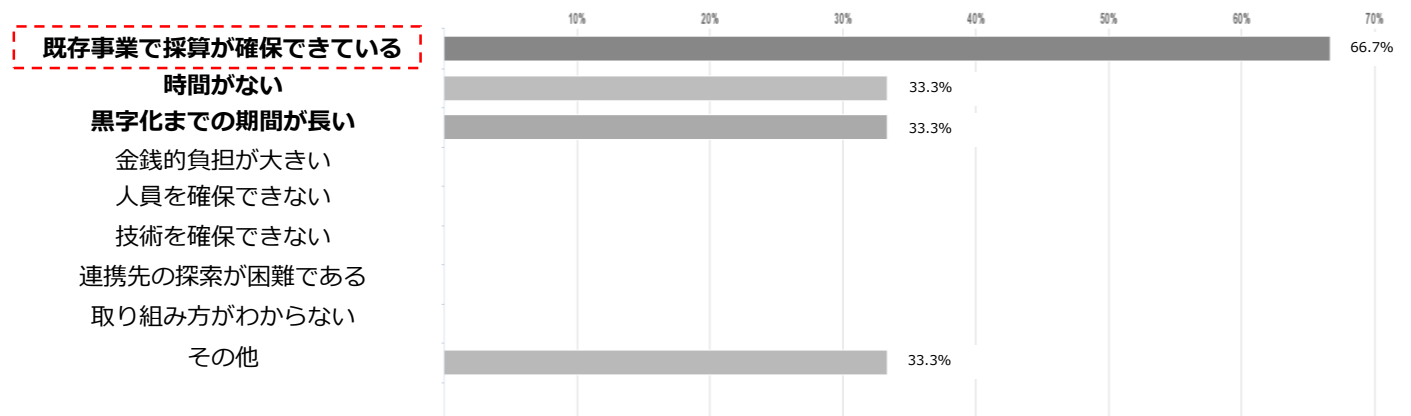




新規事業に取り組まない（④）回答者の結果

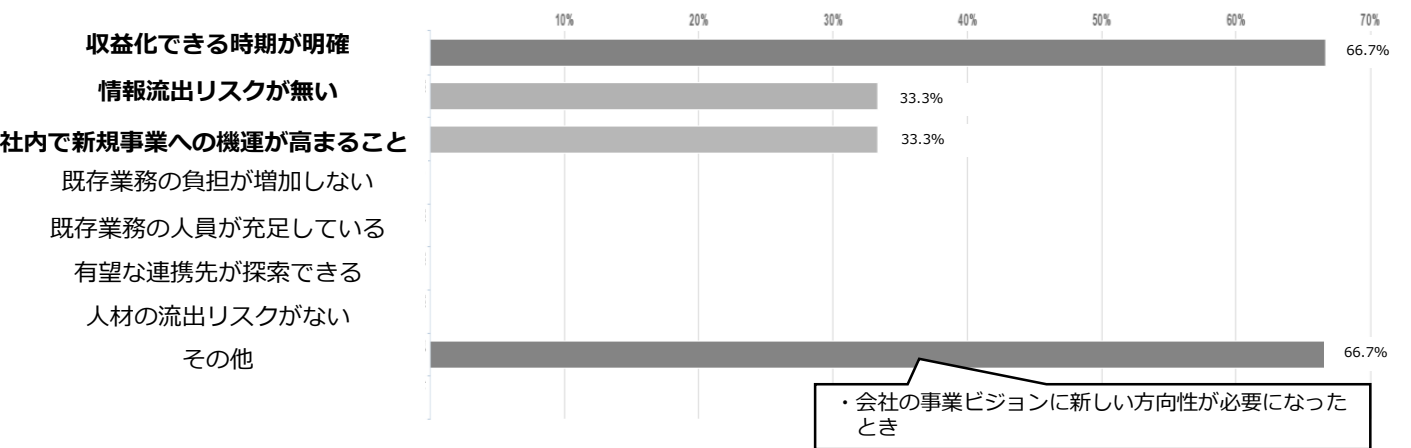
Q 新規事業に取り組まない理由は？（複数回答）

回答数：3



Q 新規事業を検討するために必要な変化は？（複数回答）

回答数：3



まとめ

<新規事業に取り組むうえでの懸念>

- ・最大の懸念事項は、コスト（黒字化）より新規事業を担う人材の不足
- ・次いで、黒字化までの期間、社内の方向感のばらつきを懸念する声

<新規事業創造プロセスでみられた効果>

- ・トライした企業からは、積極的挑戦を評価する風土醸成、経営ビジョンの共有化、若手社員のポテンシャル引き出しなど、上記懸念を払拭し、社内への好影響を認める声多数

<新規事業創出喚起に向けて>

- ・外部との交流が自社社員の刺激になると認める一方、社外活動や兼業の奨励には消極的。先進事例の効果、実態を収集し、共有する必要あり。

新規事業に取り組むことで、創造的能力をもつ新たな人材の発掘、育成につながっていることがアンケート結果からみてとれる。

構想力、共創力の涵養のためには、失敗リスクを許容したうえで経営者も挑戦する姿勢が必要といえる。